

津山市議会議員

政岡あきひろの議会報告

まさおか

津山市の皆様へ議会活動などをわかりやすく報告し、市政に関心を持っていただくために発行しています。この報告紙は政務活動費で発行しています。

一年を振り返って

津山市民の皆様、いつもお世話になっております。「政岡あきひろの議会報告」第4号が出来上がりました。また、この議会報告は、毎回議会が終わる度に作成しています。主に、私の行った質疑に関することや、その議会中に起こった出来事などについて、解りやすく皆様にお知らせするために作成しています。

早いもので、昨年四月に皆様方からの暖かいご支援とご支持を賜り、津山市議会に議席を与えて頂きました。1年が経とうとしています。以来、私は今日まで、多忙な議員活動に励んでまいりました。一方でそれは、中に入って見なければ解らないことや、予想以上に多い取り組むべき課題や問題点などに、当惑しながらの日々でもありました。

例えば、「まあ、そんなに力を入れない」というような、いわば安穏とした雰囲気漂わせる一部の声や、



イデオロギーでも政策でもない、訳の分からない数の理論に基づく議会構成などの様子に、一般市民の感覚からはかけ離れているなあ、と、感じることも多々ありました。さらには、何事も前例に依るというようなことも含め、議会独特のしきたりなどもあり、あらゆる意味において毎日勉強の日々という感じでした。

それでも私は、活気ある津山の創造とその実現にむけて、未来志向で一年間頑張ってきたつもりです。主な内容は、公約にも掲げておりました、高齢者や障がい者に寄り添う施策の実施、本来の日本人の精神性を取り戻すような教育と子育て支援、歴史と文化或いは豊かな自然を資本として津山を観光都市にすること、行・財政改革の推進による行政コストの縮減、そして、議会における定数削減と厳格な倫理規定の確立などです。

私は、それらの中から毎回テーマを絞り、この三月議会を含めて4回の一般質問に立ちました。これまでも、過去3回の議会における質疑内容にしましては、本誌1〜3号によりお知らせしてまいりました。今回は、この度の三月議会の内容をお知らせしたいと思います。

また、本年四月二十一日（木曜日）十九時から、院庄公民館において市政報告会を開催したいと考えております。この一年間の、私の活動内容について説明させて頂き、併せて津山市民の皆様方から、要望や意見を聴かせていただく機会にしたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

三月議会における質疑内容

(主に、教育に関すること)

①津山市民の、行政に対する協力意識について。新たな総合計画の実現のためには、市民の行政に対する協力意識をさらに高める必要があるのでは。

以前から私は、何をやるにおいても人間が良くなければならない、と、考え続けて来ました。本当に、人さえ良ければ法律や条文は簡潔で済みますし、社会の安全・安心を確保するための費用である、セキュリティコストも抑えることができるからです。そしてその思いは、事業や教育など、行政の取り組みが成功している先進地などに視察に赴く機会を得て、さらに深まり確信となりました。この、三月議会ではそのことを踏まえ、多くの津山市民の中に、高い倫理観や高潔な価値規範を醸成することの重要性と、それにより、行政施策への協調意識をさらに向上させるための取り組みの必要性について、市長及び当局を質しました。

例えば、愛知県西尾市では、公共施設の効率的な維持管理を行うための取り組みであるFM(ファシリテイ マネジメント)の実施に際して、大資本を排除して、地元業者を念頭に置いて発注を行うという事です。さらには、そのような行政の姿勢に呼応し、地元業界がしっかりとままり、秩序を保ちながら真摯な取り組みをしています。また、公共施設の

▲裏面に続く

管理・運営に対する市民の関心の高さと、自らが関わり協力しようとする姿勢も窺えました。

今後、津山市においても限られた予算で、効果的で効率的な施策実施をして行く必要があります。そのような時、例えば単位町内会などコアな地域社会の利益や、自分の利害関係を優先するのではなく、津山市全体の将来像や発展を考えたいうえで進んで行政に協調できるような、いわば崇高ともいえる精神を市民一人ひとりが養う必要があるのだと思います。今回は、そのような視座に立ち、市民意識をさらに高揚させていくための取り組みや、具体的な方策について質疑を繰り返しました。

② 幼少期からの道徳教育や郷土学習の必要性と、地域社会全体で教育に取り組むことの重要性。

教育に関しては、福井県小浜市を訪問する機会を得ました。福井県は、とかく話題になることが多い小中学校の全国学力テストにおいて、連続してベストスリーに入っている県です。中でも小浜市は、小学生に関しては福井県の平均点を上回っています。

ここでも、印象的であったのは地域皆で子どもを育てて行くという市民意識の高さでした。さらには、高い倫理観や郷土愛を育むための地域に根差した歴史教育の充実を感じました。何よりも、学校が示す方向性や取り組みに対して、地域が一丸となってサポートしていく気風のようなものを強く感じました。



そのような、地域における強固な支援体制がある小浜では、例えば先生がクレーム処理などに追われることが少なく、児童一人ひとりに目が届きやすいということでした。それにより、できない子や解らない子を減らすための取り組みに集中できるということでした。結果的に、平均点が高くなるのだというお話に、強く頷かされました。

一方、津山には豊かな歴史や文化に根差したエピソードや、たくさんの歴史的資源と呼べるものがあります。また、古くから多くの偉人・先人を輩出しています。それらは、郷土への誇りや向上心を養うための教材と成りうるものです。そのような、郷土の教材を活かし、高い倫理観と高潔な価値規範を育む取り組みが必ずやあります。

また、そのような人材を育成するための教育は、人間形成の早い段階である幼少期から取り組む必要があります。さらには、地域社会における世代を超えた取り組みも重要です。それらのことを、推進していくための施策や具体的な方策について質し、併せて市長自らが先頭に立って取り組んでいく決意の必要性に言及しました。

答弁概要と感想

質問内容に関しては、名古屋山三郎のモデルでもある名古屋九衛門にちなんだにらみ合いの松（我が家の、裏の公園にあります）の話や、先日行われた石破地方創生大臣の「今度の地方創生は、やらなければつぶれるんだ」という覚悟が必要であるというお話なども引用し、地方創生の視点からも、市民意識の高揚が必要であることについて、意義ある質疑が行えたと思っています。

答弁では、市長から「まちづくりはひとつくりである」ということの重要性と、自らが先頭に立って取り組む必要性について、決意を述べて貰いました。教育長からも、津山洋学による郷土学の推進、小中学校におけるふるさと教育をはじめとする、具体的な施策も示して頂きました。

今後においては、答弁で示された施策内容が、明確な形で実施されるかどうかについて、市民の皆様と共に検証して行きたいと思えます。さらに、その効果が津山市全体に波及するよう、力を合せて取り組んで行きますよう。今後とも、よろしくお願いたします。

